

5. 地盤沈下対策部外における盛土の宅地地盤としての工学的判断

(1) 宅地地盤の地耐力基準及び許容沈下量との比較

①地盤沈下対策部外の宅地地盤の地耐力は、ボーリング調査結果によれば、基準値を満足している。

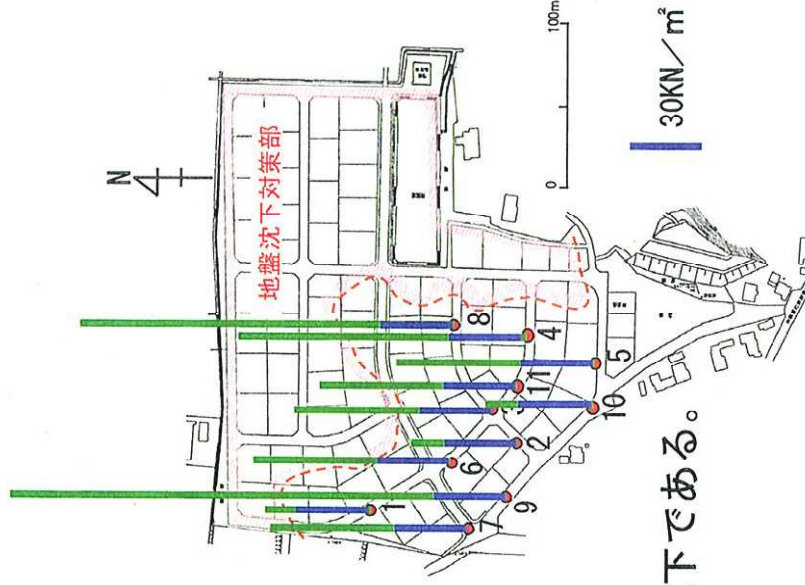
基準値※1
30KN/m ²

※1) 基準値：木造建築物直接基礎（布基礎）の地耐力 $\geq 30\text{KN/m}^2$
 （小規模建築物基礎設計の手引き（1988年、日本建築学会）による。）

各ボーリング調査孔での最小N値から算定した地耐力※2

ボーリングNo.	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6
地耐力(KN/m ²)	43.4	43.4	80.3	117.6	80.3	80.3
ボーリングNo.	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	
地耐力(KN/m ²)	80.3	153.9	202.7	43.4	80.3	

※2) 建築基礎構造設計指針（2001年10月、日本建築学会）をもとに算定。



②地盤沈下対策部外における動態観測の結果は、許容沈下量以下である。

許容沈下量※3	動態観測結果
標準値 2 cm	最大20mm
最大値 4 cm	

※3) 構造別の総沈下量の限界値の例〔支持地盤：圧密層、構造種別：コンクリートブロック構造、基礎形式：布基礎〕
 （建築基礎構造設計指針（2001年10月、日本建築学会）による。）

(2) 専門家の意見

① 「集団移転地文殊地区に関する技術調査会」座長意見

- ・ボーリング調査結果、動態観測結果及び施工管理基準に基づき施工したことの説明を受け、一部粘土層が介在しているもの、宅地地盤として問題はないと考えられる。

② 住宅基礎の地盤に関する専門家の意見

- ・ボーリング調査結果によれば、地耐力は30KN/m²有していると考えられる。また、動態観測結果によれば、地盤の沈下量は20mm程度であり、一般的には建物に影響がない程度と考えられる。

(3) 今後の対応方針

地盤沈下対策部外においては、地質調査や動態観測結果から、宅地地盤としての地耐力はあると判断しているが、地盤沈下対策部外の住民からの申し出に対しては、専門家による第三者検討会を設置して、宅地地盤としての評価を行い、地盤沈下対策部外の住民に十分な説明を行っていききたい。